



す ま い る

園小中箱根教育合言葉「箱根を愛し、かしこく、やさしく、たくましく」

立冬を過ぎ、朝晩冷え込みが厳しくなってきました。湖畔から見える富士山の雪も増え、箱根の山々の紅葉と空や湖との色のコントラストがとてもきれいです。そして、澄み切った青空の中に小さな飛行機を見つけることも子ども達の得意技です。そんな自然の豊かさに触れながら「箱根っていいな」と実感しているところです。

さて、最近「SDG s」の言葉をよく耳にします。皆さんがご存じのようにSDG sは貧困、人種差別、環境破壊などの地球規模の問題を解決するために「誰一人を取り残さない」という共通理念のもと、国連・加盟 193 国が達成を目指す 2030 年までの国際目標として定めたものです。SDG sとは「サステナブル デベロップメント ゴールズ (持続可能な開発目標)」の略称で「貧困をなくそう」「飢餓をゼロ」「質の高い教育をみんなに」「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「つくる責任つかう責任」「海の・陸の豊かさを守ろう」など 17 の目標を掲げています。3 食ご飯が頂けて温かい布団で眠る。当たり前と思っていることが当たり前ではない人や場所があるということなどを恵まれた環境の中で過ごしている子ども達は、それを実感することはなかなか難しいことかもしれません。しかしこれからを担う子ども達には、自分さえよければいいのではなく、いろいろな環境や人について自分のこととして考える大人になって欲しいと願っています。子どもに様々なことを伝える時に、言葉だけで伝えても子どもは理解できません。SDG sに必要な「パートナーシップ」=「協力」することの大切さを感じるには、幼児期に親切にされ、助けられた経験がなければ育ちません。物を大切に扱う大人の姿や人やことに向き合う姿勢など、日ごろの大人の振る舞いが子どもに大きな影響を与えると感じています。「一人一人が違っていいこと」「助け合うこと」「手洗いの時、水道の水を無駄にしないこと」など幼稚園でもできることから始めています。

保護者の方の力をお借りして

さくら組親子ハイキングでは、登山ガイドをされている金子さんの案内で富士見ヶ丘公園まで登山に行きました。子どもの歩調に合わせ、ちょうどいいタイミングで休憩を取り、景色などを楽しみながらの登山で無理なく進めることができました。ハロウィーンでは、子ども達の手作り衣装とネイリストの資格のある飯田さんにおしゃれにいただき、子ども達は何度も鏡をのぞき込み、気持ちが一層盛り上がりました。またある日、井出さんの叔父さんから園のピアノで演奏させてほしいと嬉しい相談が…。そこで井出さんのお父さんのギターと叔父さんのピアノと子ども達の歌で「みんなのたのしいおながかい」を聞くことができました。本格的なピアノとギターの音色に子ども達は思わず「きれい！」とつぶやいていました。権現さんでおいしいうどんやお餅を作っている石崎さんには、地域巡りの日にごちそうになりました。あまりの美味しさに笑顔が絶えませんでした。そして、散歩に行くと石を拾い、色や形に興味を持っていた子ども達。そこで、地質や鉱物に詳しい青山さんをお願いをして、箱根の森公園で「黒曜石」や「石英」を拾ってきました。青山さんが用意してくださったスライドショーやレアな石にも年長児は興味津々でした。どれも園だけではできなかったこと。それぞれの方の知識や力をお借りして「本物」と触れ合う機会になりました。この5つの取り組みに保育者も一緒に楽しませていただき、子どもと一緒に興味が広がっていきました。いつも、園からのお願いに気持ちよく応えて頂き、感謝申し上げます。そして、これからも、どうぞよろしく願いいたします。



2園交流・大文字登山と箱根幼稚園へようこそ

11/11と17日に宮城野保育園との交流が行われました。大文字登山では、宮城野保育園の友達に刺激を受けながら、段差のある場所をわざわざ選んで歩き自分の力に挑戦したり、食後のおやつ交換では、いつもより多めに準備をし交換することを楽しんでいたりでしてました。おにぎりの服を着たお友達が転がってしまう姿を見て、「おむすびころりん」に関連づけて考えたようで「おにぎりの服は登山には着ていけない方がいい。」と感じたようです。面白いですね。幼稚園の園庭では、やりたかったドッチボールやリレーで競い合い、鬼ごっこを楽しんでいました。11月は5歳児との交流になってしまいましたが、別れ際4歳児は、「今度はちゃんとばら組さん(宮保のゆり組)をつれてきてよ」とお願いしていました。5歳児は関係を広げながら自分たちの力を確認し、4歳児は同年齢の友達と関わる楽しさを味わい、3歳児は違った場所も安心して過ごせることを感じているようです。3学期も保育園と相談しながら進めていけるようにしたいです。